

# 第54回青年部定期総会 開催!



## 総会スローガン

# 若い力を結集し、輝く未来を切り拓こう!



共に頑張り  
ましょう!!



## 第62期青年委員

役職	氏名	支部
青年委員長	中司 大河	専従
副青年委員長	久保田 聖也	土浦
	大高 尚幸	水戸
主査	並里 優哉	大宮
	大貫 龍之介	浦和
委員	長沼 和輝	浦和
	川上 絢也	水戸
	森田 純平	水戸
	大谷 海斗	宇都宮
	熊谷 謙斗	前橋
	松本 光太	春日部
	廣田 勝行	長岡
	島崎 晃希	長野
	鳥海 朔	諏訪

関信国税青年部は、去る9月17日(日)にさいたま市大宮区の「J A 共済埼玉ビル」において、第54回定期総会を開催しました。

総会では、執行部による第53期活動経過報告、財政報告及び会計監査報告が行われ、満場一致で承認されました。(質疑応答について

紹介します。) また、本来であれば次期に当たる第54期の活動方針等を討議するところですが、9月16日(土)に開催された第62回定期中央大会において、青年部は活動を一時休止し、新たに「青年委員会」として活動することが決ま

りました。青年委員会では、これまで行ってきた青年部の活動(局総務課長交渉や We i c o m e ユニオ

ンなど)をベースとしながら活動していく予定ですが、独自で活動していた部とは異なるよう、専門委員会化して中央執行役員がアドバ

〒330-9719  
さいたま市中央区新都心1-1  
関東信越国税労働組合  
青年委員会  
Tel 048-600-2700  
E-Mail:ks-youth@msc.  
biglobe.jp  
発行人 中司 大河  
編集 青年委員会

# 定期総会 開催・質疑応答号



山ノ内前青年部長  
8年間お疲れ様でした!

# 質疑応答

## 青年部活動について

【群馬地本】



館林支部  
中山代議員

青年部が休部となるが、休部の趣旨と青年層組合員の活動への影響について教えてもらいたい。

併せて、今後青年部としての活動再開についてどう考えているのか。

【執行部】

これまで関信国税青年部は、青年層組合員だけの独立した組織として、活動を展開してきた。

しかしながら、近年の若手組合員の減少から、このまま独立した活動を続けることは厳しいと判断し、委員会化に踏み切った。

委員会化することで、中央執行役員の考えを取り込むこ

とができ、検討の幅が広がる

ことが期待できると考える。

なお、交渉やレクなどの活動自体は制約されるわけではないため、実施していく予定である。

青年部としての活動再開は、組織率、特に青年層組合員の増加や、その時の情勢を踏まえ中央執行委員会で検討していく。

## 加入勧奨について

【長野地本】



松本支部  
桑原代議員

加入勧奨の取組みについて、53期の青年層における新規加入状況と今後の取組方針について教えてもらいたい。

近年は新型コロナウイルス感染症の流行も影響し、従来のような加入勧奨が行えず、加入者数が減少している状況にあると考える。

【執行部】

普通科82期生及び専科53期生の加入状況について、加

入割合は2割以下と非常に低い割合となっている。

組合未加入者の中には、「そもそも加入勧奨を受けていない者」や「誘われはしたが一度きりの説明で重要性が理解できなかった者」など、

組合が何を行っているのかよく知らない者も多くいる。

今後は、公式LINEアカウントを利用した新たな情報発信ツールの活用や中央執行

委員長による全支部オルグの実施、キャッシュバックキャンペーンの継続など、組合がどんなことを行っているのかといった情報発信に注力していきたいと考えている。

# 退任役員

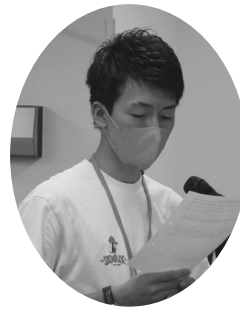


第53期青年部役員の皆様  
大変お疲れ様でした!

役職	氏名	支部
青年部長	山ノ内 堅介	春日部
副青年部長	小林 礼於	諏訪
事務局長	塚田 悠馨	古河
事務局次長	川野邊 尚暉	浦和
常任委員	北原 正教	関研
	中野 翔	水戸
	盛満 祐太	下館
	森井 駿也	宇都宮
	清宮 真理奈	館林
	齊藤 滉稀	沼田
	渡辺 大貴	浦和
会計監査	五十嵐 洋輔	村上
	松田 和也	高崎
	住田 一真	課税
	村上 遼	課税

## 研修制度について

【長野地本】



長野支部  
内藤代議員

青年層固有の問題という観点から研修制度の充実は重要であると考える。

当局へ改善を要望するに当たり、どのような要望があったのか。

【執行部】  
改善要望の多くはゼミと備品についてである。

現在、ゼミの大半はオンライン会議により行われているが、研修生からは、「集合形式の方が議論が活発になる」や「班内の相談や情報共有が容易である」など、集合して行うことへの要望が多く挙げられている。

備品関係については、ノイズキャンセル機能付きヘッドホンの配備、タッチペンの改善、オンライン図書の充実などの意見が挙がっている。組合としては、引き続き研修生の声に耳を傾け、現場の声を当局へ訴えていく。